

・雨でも休まず、213回、214回、・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山」

- ・定例活動1：5月5日（第一土曜日）：小原本陣の森・参加費400円。弁当持参。
- ・広報活動：5月12（土）～13日（日）：相模原・“若葉祭り”：案内の詳細は文中。」
- ・定例活動2：5月20日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流・多様な森林活動
 昼休みに石井さん（多摩消防署勤務）による緊急救急講習会を開催します。
 ＊参加費：会員400円、非会員700円、学生500、体験学校1000円
 ＊初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自、森へ。

- ・服装：汚れても良い服装、着替え、長袖・長ズボン・滑らない足元
- ・持参：なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（碗・箸）、飲料水
- ・注意事項：危険管理・救急体制・森林ボランティア保険を掛けるなど、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPOは、公の担い手になれるか。

行革から公の領域が民間にシフトするNPOに「民が担う公」としての役割が広がっているが、独自性を特徴とするNPOは、果たしてどのような姿で公の担い手になれるか、当会はどうか。

事業規模500万円のNPOで寄付金ゼロが2割、30万円以下が5割。その内容は、総収入の6割が委託事業収入で、その8割（全体の約5割）が公的機関の補助金だ。（東大・田中助教授調べ・日経新聞）。そして、NPO側にも問題があるが、公的機関にはNPOを安い労働力として利用する傾向が垣間見られる。この状態は、NPOの独立性を阻害することになりはしないか。当会は公からの独立性ある活動は出来ているか。当会の前年実績値から、その点を考えてみた。

当会の収入：自力収入（会費参加費・特定事業・支援金・寄付金）	5,292千円	51.4%
補助金(かながわボランティア基金21：5年契約)	5,000	48.6%
合計	10,292	100

当会の受ける県補助金は、受託でなく協働事業補助（役割分担）であり、神奈川県はこの方式は市民団体を束縛しないような仕組に作られている。従って、当会の独立性は守られていると言えよう。田中助教授には、「神奈川県方式」を研究してはどうかと伝えた。

県補助金は、税金が財源だから監査は厳しい。5年契約の1年目は、その厳しさに辟易したが協働事業に取り組んだことによって行政の仕組が随分と勉強になったし、その後の協働は順調に推移している。そして又県は、契約期間中の活動と5年後の財政的な独立性も厳しく求めてくる。

一般に行政と市民は対立しがちだが、行政の仕組を理解すれば行政は強い味方、協働の仕組は生きてくる。双方が互いの役割を理解し合えば、NPOは「民が担う公」になれる。

活動報告 1 : 小原本陣の森 : 技術向上・担い手育成 : 4月 7日 (第一土曜日)

芽吹き of 盛春・快晴。協力協約・石井山の検査は合格したが、どうしても気になる残り木の処分が必要と、当会から独立して新しい森林ボランティアグループを結成する12名、合わせて22名が参加。お昼頃までで気がかりな仕残し仕上げ作業を終えたが、“美しい森は豊穡”を謳う当会として、林道沿いの混交林をもう少し片付けたい。森林運営会での検討事項とする。



最後の仕上げに取り組む

新しいフィールド：“中里山踏査”

午後は、次の予定地“仮称・中里山”の現地踏査に6名が参加。場所は作業を終了した大久保沢沿いの“石井山”上流約300m先の右へ遡行する約150m付近上沢の混交林・約1haが次のフィールド。荒れてはいるが、森は明るく植生は豊かである。混交林だからだろうか小さな沢だが、思いがけない水量がある。間断なく鳥のさえずりが聞こえる。楽しみなフィールドである。



中里山の境界線を調べる

今後の見込み：“中里山”隣接の地権者と境界線を確定し測量をして、県と協力協約協定申請後、入山は8月頃からになる見込み。それまでは中里山までの作業道づくりと石井山の後片付けをする。

活動終了後：役員会・経営運営会：午後15時～17時、桂北公民館

活動10年目、法人にして5年目の当会活動を見直す「役員会・経営運営会開催」には永井代表理事・役員及び経営運営委員・計10名参加。

- 議題
- 1、活動10年目の統括報告及び現状の問題点と解決策
 - 2、組織改正・強化：役員改選案と経営運営会の新設

3、18年度事業別実績、19年度事業別予算案報告

4、その他：相模原市協賛参加“若葉祭計画”

役員には地域の実力者をお願いしているが、地域の方々の会を支えるお気持ちの切々と表れる討議は、有意義に終始した。内容・結果を掘り下げて「第5期通常総会・6月開催」で報告する。

活動報告2：若柳嵐山の森

1、望星の森・植樹計画：3月31日（第5日曜日）

報告 佐々木博基



丸茂さん・宮村さん・石村さん・佐々木が「望星の森・植樹地の確認」のために山主（鈴木史比古さん）と歩きました。山主さんによると養護学校の先生が、この森の羊歯の数・種の多さを言っておられたそうです。植樹の予定地では日当たり状況によって植えるべき樹種の指示して頂きました。

また、樹形によって樹の状態を教えて貰いましたが、大きな樹の一本一本の状態全てを説明しそうな勢いの熱い説明があり、山主さんの森に対するひと一倍深い思いと愛着を知りました。

森林組合の役員をしておられる山主さんから将来の森の手入れを考えたつくり方を教わり、これらの事から私たちの活動の新たな方向性が見えてきました。帰路、間伐した方が良い木の1本1本倒し方を詳しく説明して頂き、私たちの活動に対する理解の深さと応援の強さを感じました。

栗の木の更新のことを相談しましたが最近、受粉用の苗を植えて下さっていたことを知りました。また、来年の植樹用の苗を植えさせて頂くようお願いし、了解を得ました。今後共相談に乗って頂く事も快諾くださいました。帰りに本家のオジイサンに今日のことを報告しましたが本当に貴重で有意義な活動の一日を終えました。

2、定例活動・若柳嵐山の森（望星の森・植樹）：4月15日（第3日曜日） 報告 伊藤小夜子

快晴・初参加：日大森友クラブ4名を含む48名参加。昨年来、学生が急増している。この日も半数は学生で占められており、林学を目指す受験生石原さんも参加した。望星高校生たちは入学式のため、宮村教諭と高校生の参加なし。代わりに教務主任の土方先生と石井先生が参加して下さった（以上、石村記）

まず、柄の苗木を掘り起こして根から掘り出す作業。ガーデン横の狭い所に大勢入ってスコップや鍬で掘り出す。「ほら足元に小っちゃいの、出てるよ」、「山ちゃんの後ろに大きいのがあるよ」とか賑やか。傷つけず泥ごと根っこから掘り出すのは、一人では結構、手間が掛かるので二

人掛り。それでも大小80本ばかりの栃の苗木を一本ずつ新聞紙に包んで水に浸し、昼前には痛めないよう軽トラに積み終えた。

午後、軽トラで作業道入り口まで運搬し、手分けして植樹地まで運び上げ、先月マーキングした場所の高いところから横並びに植えて行く。急な斜面、小石大石が多いので掘るのも一苦労だったが、下に行くにつれ楽チンに。富沢さんが自宅でドングリから育てた苗をいっぱい、陽あたりの良いところに植えた。“ドングリから育て

”なんてホートに絵本にある「木を育てる男」そのまま、何かメルヘンチックな幸せ！！。

植え終わった帰りの小徑で女子大生が「何んか、爽やか！」と言う声が手入れの行き届いた森にエコーしていた。

基地では、大坪・松尾コンビが大木のエノキを切るチェーンソーの音が響いていたが、素晴らしい曲線のテーブルが出来るだろう。一方、ファール佐々木先生は、中くらいの小枝を機械に入れて日大生3人とチップづくり、一袋30分くらい。女学生は、時計づくりのために杉の実を集めていた。

*** 活動の新しい傾向：学生や若い層の参加者が増えた。**

年配者の森林ボランティア参加の動機は、癒しや健康保持・リクリエーションの対象で、環境に関心を持つてと言うのは余り聞かない。学生の参加動機は、「自然破壊が心配だ（東薬科大・院生・前川君）」とか、「一生を森林に掛けたい、その手掛かりを探しに来た（信州大・土肥君）」と言うケースが増えている。

大学の学科にも森林管理学科、生物環境工学科、森林地域共生学科、環境情報学科、森林文化情報学科などが見られる。

8年前、東京農大の聴講生になって5科目を選択した。4年次の林業機械講座で就職試験で不採用になった学生が「入社試験官から今時、林学なんか勉強して何の役に立つかと言われましたが、どう考えれば良いのでしょうか」と担当教官に悩みを打ち明けていた。教官も困った顔をしていたが「そんな事を言う、先の見えない会社に採用されなかったのは良かったじゃないか」と言ったら少しは慰めになったのか、その学生は「ありがとうございました」と言って立ち



苗を掘り起こし



担ぎ上げて

去った。10年も経ないのに急激な時代の流れや意識変化を感じる

行政組織も、森林環境部（山梨県）環境農政部（神奈川県）新たに組織改編があった相模原市では、経済部と環境保全部が合体して「環境経済局」となった。経済なしには環境保全部は考えられないが、18世紀の産業革命来、経済一辺倒で進んできた世界も人類の存亡に掛かる地球温暖化や森林の消滅問題を眼前にして、ヨウヤク、重い腰を上げ始めた。このような状況下で目的意識をもって参加する若い人たちの急増に希望を見出している。



3年かけて作った望星高校生による急斜面・崩壊跡地の「望星の森」の植樹が完了した。正しくこれは、“森林破壊と言う負の遺産を子孫に残さない”若い層の新しい環境取り組みの象徴的な活動だ。

北鎌倉活動報告：春の「匠の市」

報告 緑のダム北鎌倉 兼松まゆみ

北鎌倉恒例・春の「匠の市」が31日、4月1日、満開の桜、翡翠のような楓の新緑の中で開催され、多くの人・人・人で賑わい沢山の出会いがありました。特に今回は1年間勉強した特別森林部会の同窓生の皆さんの訪問を受けました。そして、フィールドを貸して下さる地主さんと整備したい人たちを核にいろんな人々が加わってネットワークができ、全ての皆さんに喜んで頂ける結果が出せました。思えば、全てがこの東慶寺の竹林整備と「匠の市」から始まった。正に人・物・出会い・ふれ合いで育まれたのです。森仲間の皆様の里山を大切に思う熱い思いの結果だと頭が下がるのです。そして、寒い日も暑い日も「匠の市」を主催して下さいました「北鎌倉町づくり協議会」の皆様、森のお仲間の皆さま、お疲れ様でした。ありがとうございました。今年11月予定の市でも又良い出会いがありますように。

整備のために寒期除伐の3、4年ものの孟宗竹が3ヶ月掛けて乾燥したが良い炭になりました。その炭から炭石鹼、竹酢石鹼、脱臭剤などが「関谷竹炭の会」の方々により作られ、近いうちに地主さんである東慶寺さんの受付窓口にて販売して下さいます。ボランティアで整備し出した材が少しでも加工するグループに繋がれば、地主さんは自助努力で山の管理が可能になることになるのではないか、当会の目標・「環境への取り組みが経済に繋がる」、そんな意味で大いに楽しみなことです。

其の他の報告

1、「かながわボランティア基金21」・・・基金21事務局

・・・齋藤所長面談：4月13日(第二金曜日)・・・



同上事業の今年からの新しい仕組として神奈川県と市民活動の相互理解を進めるために、基金21対象の個々の団体と県担当部署の意見交換会が設けられ13日、仲間3人を誘って訪問した。意見交換会では言いたいことを言わせて貰ったし、県側の取り組み状況を充分、聞かせて頂いた。この面談で神奈川県の当該事業は、県民の側に立って事業を進めたいとする姿勢が強く感じられて嬉しかった。

神奈川県は五つのマニフェストを掲げている。教育・福祉・安全・環境・市民力協働である。当会の関わる環境・市民力に関わるものとして“環境NPO日本一”を掲げているが、神奈川県の基金21は、市民力日本一を目指す具体的な活動として納得できるし、そうなりつつあると思う。

2、「小原宿活性化計画」・・・活性化協議会：小原集会場：4月14日(第二土曜日)

第5回・最終回計画打ち合わせで「小原宿活性化計画」の概要が固まった。今期は、これを実行に移すと言うことだ。内容は以下の通り。

- 1、甲州古道復元
- 2、古民家・遊休農地活用
- 3、孫山周辺景観整備
- 4、食のビジネス研究
- 5、本陣もてなし
- 6、小原宿町並み保存

相模原市観光振興課はこの6つの課題で、取り組み受け手を募集した。そこで当会には、3・孫山周辺景観整備のご指名を受けた。孫山は、小原本陣尾根頂上に位置し、「小原本陣の森・整備」に取り組んでいる当会として手ごろな活動目標となり、小原町や相模原市との協働を明文化する事ともなる。

また、孫山から小原本陣へ下る尾根は、眼下に相模湖・中景に丹沢連山・遠景に富士山を望む絶景のビューポイントである。そして「陣馬山～明王峠～与瀬神社～相模湖駅」に至る下山道と小原本陣に至る尾根下りに繋がる絶好の場所に位置している。これを形にするためには、小原町・森林組合・相模原市民・相模原市(行政)・過日、この森を歩いてくれた東京農大の田中先生(学際)とも協働しないと具現化できない。当会の活動は、いよいよ、「全ての人々との協働」を本格的な森林整備につなぐ形が整ってきたと言える。

3、相模原市・・・「若葉祭・準備」に続く新たな胎動

津久井四町と合併して一挙に58%の森林率(面積にして1万9千ha)になった相模原市に、5月12日(土)～13日(日)の若葉祭りに際し「森林を訴えるコーナー」の参加を申し入れた。担当

部署はただちに対応してくれて、市役所横の第二駐車場の一角を約150坪ばかりを空けてくれた。

これは元々、都市産業研究会（相模原商工会議所内）と協働課題にしていたことであるが、参加希望者がたちまち集まった。主な出展者は・・・、

- 1) 森をつくる：津久井森林組合・北都留森林組合、緑のダム、
- 2) 森とつなぐ：市内環境団体、オイスカ、都市産業研究会(相模原商工会議所)、相模原青年会議所
- 3) 森をいかす：神奈川県建具組合・相模原市部、NPO・SHS 友の会（シックハウスを出さない健康住宅）

この繋がりから4年前、仮称で活動を始めていた「森林と都市をつなぐ活動・協議会」結成へと発展の兆しが見える。木材生産地・上野原市(山梨県)と消費地・相模原市(神奈川県)は県境を接しており、タイミングと言い、立地条件と言い絶好の時機到来と思われる。

活動アンケート第11回：森林管理・その他の質問

FSCは、問題があれば解決することを求めている。208件のアンケートに対して38項目、58件の質問が得られた。一昨年11月から今年3月までに全般的・森林管理(組織・資金・情報公開・社会的責任・森づくり計画・作業・作業道・間伐材管理・化学薬品・その他)について解答してきた。今回は、外来種の問題を考える。考えに対する疑問・意見・反論、忌憚のない異論を提供されたい。(この回答欄は、認証機関SGSの観察条件になっています)

質問：子供たちが興味を持つ森林に：我々はいずれ居なくなる。子供たちに任せる施策が、もっと必要ではなからうか。森に来てくれたらもう一度、来てくれるように。

回答：本当にそうです。森は後継者がいないので荒廃が進んで荒れています。「担い手育成」は当会の森林活動の基本の一つです。

- ・子供たちに何度も森に来て欲しいと言うご意見について・・・、斉藤憲弘さんが取り組んでくれている「緑のダム体験学校」は、地元の桂北小学校の課外指導を十数回行いました。昨年来、高校生(望星高校)や大学生(日大、東海大、麻布大、学生連合 Forest Nova など)の参加が急増しています。法人発足当初は、停年退職後の人々が中心でしたが今は、若い人たちの参加急増で平均年齢が35～40歳位でしょうか。
- ・また、今年の「緑のダム体験学校」は「学生連合・Forest Nova」の協力を得て“親子体験”をテーマにしてみようと言う話も持ち上がっています。昨年、この森の直ぐ側に「津久井養護学校」が完成し、その子供たちが森に散歩に来ていますが、養護学校の先生とも、「ご一緒しようではありませんか」との話も持ち上がっていますし、神奈川県青少年育成センターからの問い合わせもあります。ご指摘の話について、沢山の話が持ち上がっています。

要望も多彩でいわゆる、需要(参加希望)急増の傾向です。受け入れ体制(供給)が追いつかないところが問題です。「緑のダム体験学校」は、齋藤学校長を中心に対策を進めていますが、「学生連合・Forest Nova (NECが環境CSRとして支援しているとの事)」が応援体制を構築中です。

ご案内 1 ・ ・ 新 ・ 相模原市：若葉祭参加：

5月12日(土)・午後13時～、13日(日)・午前10時～午後17時まで

相模原市の総面積の58%を占めることになった旧津久井郡・森林地帯を市民の方々に広報するために津久井森林組合など11の団体と協力して出展します。

テーマ 森林と都市をつなぐ
木を使うことは、森を守ること

出展者

- ・ 森をまもる：津久井森林組合・北都留森林組合
- ・ 森とつなぐ：NPO 緑のダム北相模、
緑のダム北鎌倉
都市産業研究会(相模原商工会議所内)
相模原青年会議所(地域コミュニティ)
NPO 自遊クラブ、
NPO「畑と田んぼ環境」再生会
- ・ 森をいかす：NPO・SHS友の会
(シックハウスを出さない健康長寿住宅)
神奈川建具共同組合

場所 相模原市役所横・第二駐車場二階
時間 12日は、13時から

.....
特に・・・相模原市と津久井四町が合併して初めての森林広報の場となります。
森林仲間の沢山の応援をお願いします。

ご案内 2、公開開催：かながわ水源環境の保全・再生：県民会議

5月16日(水)10:00～12:00、かながわ県民センター(横浜駅西口徒歩3分)2階ホール。参加自由。

- 議題 1 水源環境保全・再生施策概要
2、平成19年度当初予算
3、県民会議運営について
4、その他。

当会は、森林NPOの立場で県民会議の委員を拝命しており、NPO活動の自由で柔軟な発想・行動が期待されています。県民会議は公開で進められる。森仲間の沢山の発言・助言が欲しい。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ポチポチと・・・
そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称 : さがみ湖・森づくりの会：NPO法人緑のダム北相模・森林部会
事 務 局 : 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9
発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636
H P : <http://midorinodam.jp> E-mail : info@midorinodam.jp

協 働 団 体 : 神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)、
セブーンイレブンみどりの基金

ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ
神奈川県建具協同組合